

# 来週の「売り物」記事はこれ



2013年7月12日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 福島原発事故で遠のく故郷

### 漂流する双葉町民

朝刊 14日(日)



福島第1原発事故で、故郷から200キロ離れた埼玉県加須(かぞ)市の学校校舎に役場ごと避難した福島県双葉町。福島県の避難自治体の中では唯一、県外に拠点を置いていましたが、このほど役場の機能は2年3カ月ぶりに福島県いわき市に移りました。けれども避難所となった学校校舎にはいまだに100人の町民が生活をしています。帰宅困難区域のために帰還の見通しが立たなかったり、



あるいは高齢のため身動きがとれなかったりと、その事情はさまざまです。プライバシーはないに等しいという過酷な避難所生活。そうしたなかでも、前を向いて生活再建に踏み出した書道家とその家族にスポットを当てながら、東日本大震災「最後の避難所」の日々を描きます。

日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待ください。

## 「男は邪魔！」じゃないぞ!?

夕刊特集ワイド 16日(火)



雑誌に「夫を捨てたい」という文字が躍り、タイトルに「男が邪魔!」と掲げた書籍が話題になっています。そんなに日本の男性は「いらない」のかのでしょうか? こんな問いかけについて7月2日の夕刊特集ワイドで女性記者が考察しました。「男性の脳は家庭のことを考えるのに向いていないんです。地球のために戦うウルトラマンに、洗濯物を取り込む余裕があるわけない!」とは「夫婦脳 夫心と妻心は、なぜこうも相容れないのか」の著書がある感性リサーチ社長の黒川伊保子さん(53)。

漫画家の柴門ふみさん(56)は「夫や男性を邪魔だと思ったらそう言える社会は、『女が口答えをするな』という社会よりよっぽど平和」と笑います。これに対し、今回は男性記者が「男は邪魔じゃない」と反論するとともに、「邪魔」と言われなかったためにはどうしたらいいかを考えました。

## — 生きる物語～不屈のカメラマン —

朝刊 新総合面 17日(水) から

長野県・黒姫高原でペンションを経営してきた写真家、南健二さん(68) =写真= は、27年前に原因不明の腎臓病「IgA腎症」を発症した。体調を気遣いながら、作家のC・W・ニコルさん(72)と二人三脚で全国を回り、ニコルさんの大半の著書に写真を提供してきた。脳出血、人工透析と試練が続いたが、カメラは絶対に離さなかった。「『闘病』という言葉は好きではない」と話す「南さん流」の病気との向き合い方を紹介する。



## 「みんなのエキストラ」

くらしナビ面 15 日 (月)

映画やドラマ、コマーシャルの撮影に欠かせないエキストラ。「私も出てみたい」と思ったことがある人も多いのでは。「エキストラにはどんな要素が必要なの?」「出演情報はどこで得られるの?」「出演料は出るの?」「芸能事務所に登録するには?」など、さまざまな疑問に答えます。「心構え編」(15日)、「実践編」(16日)、「シニア編」(17日)の3回掲載です。



## 不妊治療の年齢制限

くらしナビ面 16 日 (火)



体外受精などの不妊治療(生殖補助医療)への公費助成に、年齢制限が設けられるかもしれません。厚生労働省の研究班が3月、高年齢の不妊治療の成功率が低いことなどから「費用助成の対象年齢は39歳以下とするのが望ましい」とする報告書をまとめました。これを受け、厚労省が検討を始めています。結婚・出産年齢が上がる晩婚・晩産化が進み、不妊治療を始める年齢は遅れる傾向にあり、不妊治療を続ける当事者らの団体などからは反発の声が上がっています。問題点と現状を探ります。

## 「リタ活」のすすめ

くらしナビ面 20 日 (土)

「リタ活」という言葉をご存じですか。リタイア後も、充実した人生を送るための活動のことです。生き生きとした「理想の老後」を過ごすためには、50代から本格的な準備が必要といわれます。退職、子どもの独立、親の介護・看取り、終の住み家探し、相続……。さまざまな節目を見据えた人生設計の立て方を紹介します。

